**お前のあの弟 2016 03 06**

**ルカ15:1-3 11-32 安達均**

主の慈しみと平安が、四旬節の旅路を歩む、この日本語部の群れに豊かに与えられますように！

私は小さい時から親のいうことを１００パーセント聞いて、いっさい逆らうことなく、親に仕えてきました。と胸をはっていえる方いるだろうか？

ある母親と１０代の女の子の会話に、こんな会話があった。「娘よ、私の言うことを聞いてくれないから、おかげで、私の髪はどんどん白髪になってきているのよ。」

すると娘は応えた。　「おかあさん、じゃあ、おばあちゃんの髪の毛があんなに真っ白なのは、どうして？」

親あるいは親代わりになってくれた方に、苦労をかけずに育つ子どもなどいないのだと思う。　また親のいうことを１００パーセント聞けるなんてことはないのかと私は思う。

与えられた聖書箇所、有名な放蕩息子の箇所だが、15 章の1-3節が読まれたのは、問題提起。イエスがなぜ、さだめられた税金徴収額以上の税金を受け取り、自分のふところにいれるような徴税人たち、つまり罪人といっしょに食事をするのか、そのような疑問がユダヤ教の指導者たちから提起された。

それに対する答えは、三つのたとえ話。　今日読まなかったところが二つあるが、一つ目は、神は、見失った一匹の羊を見つけて大喜びする羊飼いのような方、無くした銀貨を見つけて大喜びする女性のような方、また、今日のたとえ話にある放蕩息子の父親のような方だから。　神の感心は、罪人が滅んでしまうのではなく、神のもとに立ち返り、神の子として生きることを望んでおられる。

１５章全体の大きなポイントを話してしまったが、今日のたとえ話の中に、主役とはなっていないが、ひとりのとても大きな罪が表現されていると思う。　ユダヤ教の指導者たちが、イエスが徴税人たちと食事をともにすることが理解できなかったように、放蕩息子の兄は、父が、放蕩息子を歓待して大宴会を催すのは理解に苦しんだ。

２９節にある放蕩息子の兄の言葉だ。　「このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。」と語ったその言葉には、兄の方にこそ、罪が潜んでいるのだと思う。　まず仕えていますという言葉のなかに、ギリシャ語の表現はデューロスという奴隷という意味の言葉が使われていて、自分が長男だから、資産の相続はあたりまえで、しかたなく、父に仕えているという思いが見えている。　また、「言いつけに背いたことは一度もありません。」などとは、とてもいえないのだ。

同じわが子である、長男、放蕩息子の兄の言葉に、父は痛みを覚えたに違いない。　兄は、長男であるがゆえに父の財産が自分のものであるのは、当たり前であり、また、まったく父に背いたことのない、義人であるかのごとくに生きてきたと主張する。

また、兄には、弟に対する思いやりも感じなければ、弟を裁いているような言葉が感じられる。　つまり、父が弟のために大宴会をするなんていうことはとんでもないことだといわんばかりだ。

そのような兄に対して、父は、諭そうとして、「子よ。」と呼びかける。　ギリシャ語では「テクノン」という単語になるが、そこには、同じ父から創造されたものよ。」という意味が込められている。　そして「お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。」と話している。

お前のあの弟とは、あの弟も、お前と同じように創造主から創られた兄弟であり、その造り主に立ち返ったのだから、こんなにすばらしいことは、ないじゃないか　と兄を諭している。

メッセージの後半は、放蕩息子の兄と、父との関係にフォーカスしてきたが、この兄と父の関係や会話を通して、いま、私たちは何を学んでいるのだろうか？　私たちは、いま、この放蕩息子のたとえ話では、いったいどこに存在しているだろうか。

毎週毎週、礼拝を守っているなかで、とかく、自分たちは放蕩息子の兄のようであると思えないだろうか？また、私たちと全く考え方のことなるクリスチャンや、あるいは非信仰者の方々に対して、私たちとは違う「あの人たち」と差別してしまうような現実があるのではないだろうか。

その私たちに、父なる神は、「子らよ、お前のあの兄弟姉妹たち」といって、父なる神は語りかけてくださっているように思う。　つまり、この地球上にいる人類すべてが、「創造者」に創られたという観点において、兄弟姉妹であることに気付くように導かれる。

「あの人たちは」といって差別したり、時には裁いたりしてしまう、私たちの罪を悔い改め、神の最高の感心事である、回心、つまり私たちが、神に立ち返って、新たに神に創られた子としての歩みを始めるように導かれている。　　このレントの期間、自分の思いとは異なって、さまざま予定外の体験やあるいは怪我とか病気の体験を味わう中で、それらの苦い体験が良き方向転換になることを信じ、一歩一歩、歩むことができますように！